

◎TR（トレーニング）とは

「人は聞いたことは忘れる 見たことは覚える したことは理解する」

「人の学びの記憶」をふまえて、「トレーナー」としての教師の役割を自覚する。

つまり「ティーチャー（教える人）であるよりもファシリテーター（促進者）」としての役割を自覚することである。そのために大切なことは、場面場面での教師の「言葉かけ」である。どのタイミングでどんな言葉かけをするか。それが、生徒により刺激を与えることになる。

〈キーワード〉・・・刺激を言葉で与える

人は変えることはできない。人は皆、自らを変えることしかできない。

できることは、変わるための第一歩を促進することにすぎない。揺さぶることにすぎない。

相手の「知性」と「感情」と「身体」の周辺に「風を送る」ことにすぎない。

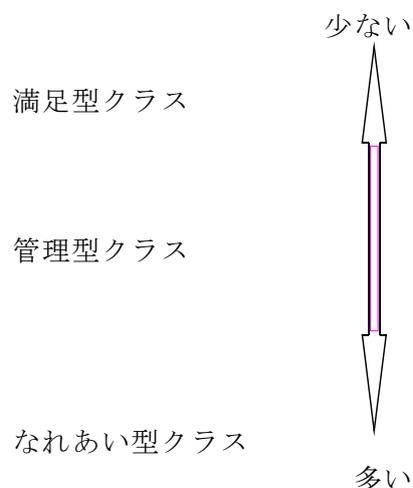
↓
(風土づくり)

生徒が徐々に獲得していく。生徒を都合よく変えてくれるプログラムはない。

自立感・達成感・満足感

※「風土づくり」は時間がかかる。劇的に変わるプログラムはない。だからこそストレスを感じずに、楽しみながら取り組む姿勢を大切にしたい。後味の良さこそ「風土づくり」だから。

◎いじめの実態（いじめの多い・少ないクラス）

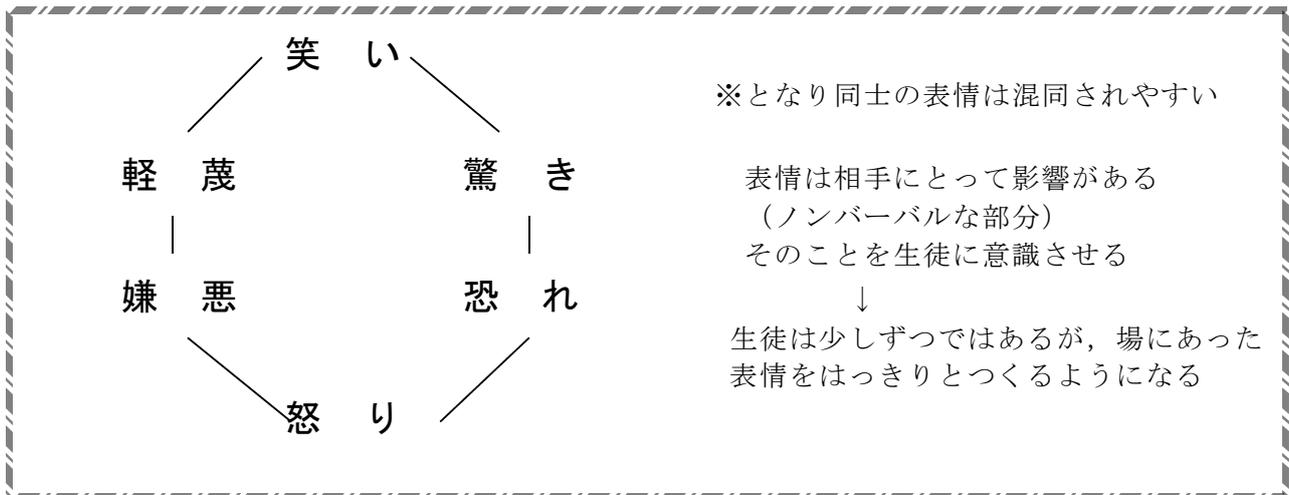


※「満足型」のクラスは
学習規律、プラスアルファのあるクラス

例えば、自分達で何かを成し遂げた
自分達で高まっているという自覚

↓
「風土づくり」

◎シュロスバーグ表情相関図



◎共感の顔

相手	私
プラスの感情	笑顔
マイナスの感情	悲しい顔

・・・怒りたいけど悲しい顔をする→印象に残る
(効果的)

◎ノンバーバル（非言語的）コミュニケーション

- 体の向き（ 立っている 正面 ）
（ 坐っている 前傾 ）・・・例えば授業中
後ろに反り返っていると態度が悪く見える
前かがみだと集中しているように見える
（生徒にも説明する）
 - 視線
 - うなづく・・・例えば自分が話しているときに相手がうなづきながら聞いてくれると
安心感が生まれる→「風土づくり」
 - 微笑みかける
 - 「フンフン」という音・・・共感している
 - 相手と同じ姿勢をとる
- ※授業中や教師に対してだけでなく、「友達同士」でもするように促す。
例えば、「中学生は先生や親にほめられるより、友達に認められたい。友達に「すごい」
ってほめられることで自信になる。そういう年頃なんだ。」と日常的に語っておく。

◎対人関係に関するスキル

言葉のキャッチボール

- (1回目) ボールを強く投げながら「ごめんなさい」と言う → 〈ムカッとする〉
(2回目) 「ごめんなさい」と言いながら優しく投げたボールを、無視してとらない→
〈イヤな気分〉
(3回目) キャッチボールをする → 〈1, 2回目の後なので、すごく気持ちがいい〉

上のエクササイズをした後に、学校生活の中で実際にどう生かしていくかを考えさせる。

- ①学校生活のどんな場面で
 - ②どんなあいさつ(言葉)を言いたいか
- 生徒にそれぞれ考えさせた後、ロールプレイングをさせる。

※日常に関連づけさせることが大切である。

振りかえりの内容としては

- ①今日、感じたこと
- ②友達のよかったところ
- ③新たな気づきは? など

組み合わせれば、1時間の授業内容になる。

えんぴつ対談

テーマを与えて二人一組で行う、いわゆる「筆談」

「人権学習について」「期末テストを終えて」
いろんなテーマで何度でも気軽に行うことができる。
生徒の表情を見て、最後にひとつ教師が全体に紹介しておけば、後は教室掲示で、興味を持って生徒達がお互いの内容を読む雰囲気ができる。その雰囲気が「風土づくり」につながる。

「えんぴつ対談」をすると、相手の背景が見えてくる。
同じように瞬時に「背景」が見えてくるエクササイズに「偏愛マップ」がある。

今回の体験活動

偏愛マップ

- ①自分の好きなもの、他の人にとっては取るに足りないものかもしれないが、自分にとってはこだわって愛しているもの、つまり「偏愛」しているものを紙に書く。
- ②二人一組になって、お互いのマップを交換し、相手に質問をする。

※ルールは相手の書いていることを絶対に否定しないこと。どんどん質問して会話を盛り上げていくこと。ノンバーバルコミュニケーションを実践すること。





参加者全員が実際に体験しました。

はじめて会った先生とペアを組みました。

マップを見ると、確かに相手の背景が見えてきます。

普通、もっと親しくならなければ聞けないような話も聞くことができ、相手に親しみをもてました。

クラスでやる時は、短時間で次々にペアを変えてやると盛り上がります。

男子同士、女子同士、男女など、ペアの組み方も様々できます。

会話したことがない人同士でも、マップがあるので話題に困ることがありません。

困らないどころか、自分の好きなことについてはどんどん質問してほしいし、話したいものです。何よりよいのは、道具がいらぬことです。紙が一枚あればよいのです。

クラスだけではなく、部活動でも生徒会役員研修でも、学年集会、全校集会でもやることができます。おすすめのエクササイズです。

背中合わせ・向かい合わせ

- ①二人一組でペアをつくり、一人が絵の書いてある紙をもつ。一人は白紙の紙をもつ。
- ②まず、背中合わせで、絵の説明をする。説明を聞きながら、絵を再現していく。
- ③今度は、向かい合わせで同じ事をする。



これも、参加者全員が体験しました。

背中合わせだと、声も聞き取りにくいし、不安な気持ちになります。

向かい合わせだと、落ち着いた雰囲気で行うことができました。

生徒達の感想が、背中合わせだと「うるさい・不安・こわい」向かい合わせだと「静か・安心・うれしい・できる」になるのもよくわかりました。実感できました。自分が生徒になってやってみることで、理屈ではなく感覚としてわかることはたくさんあります。

「後味の良さ＝風土づくり」と言う意味も実感しました。

それは、学習会の教室自体が、知らない先生方の集まりにもかかわらず、エクササイズが進むにつれ、ほんわかとしたあたたかいものになったからです。

会場を出るときには、知らない同士だった先生方が「また、次の学習会でお会いしましょう」

「今日はありがとうございました」などお互いに言葉を交わしていました。

今回の学習会が講義だけで、体験的なエクササイズが入らなかったなら、こんな雰囲気はできなかったのではと感じます。

それは、生徒にとってはなおさらかもしれません。

「風土づくり」のために、まずは二人一組でのエクササイズを数多く行うこと。かなり有効だと納得の体験学習となりました。

グルーピング・トレーニング

1年生から取り組ませると、有効である。

教師が黙って指で人数を提示する。例えば、片手で人数を示すときは、男女別々に提示された人数のグループをつくる。右手で2人、左手で2人など両手で人数が示されたときには、男女混合で示された人数のグループをつくる。

その時にこだわりたいのは、ひとりぼっちをつくらぬことである。グループに入れない生徒を「こっちにおいで」と呼んであげる。さらに、手をとって連れてくるなどの行動をとらせるよう、教師が促す必要がある。(ファシリテーターとしての役割の自覚)

また、あぶれそうな生徒がいるときには、あえて提示された人数を守らなくても、グループに入れる方がよいということを生徒にわからせる。トレーニングの目的を納得させる。

整列指導

1年生から取り組ませると、有効である。

「気をつけ」「前にならえ」を緊張感のある雰囲気で行う。

その後、「前の肩をもめ」

お互いの肩をもむ（スキンシップ活動）

つまり、心のボタンをはずさせる。（アイスブレイク）

すると、次に説教をする場合などに、素直に聞き入れる雰囲気ができる。

新聞紙でチャレンジ

①新聞紙を適当に切る

②パズルのように合わせていく

※共同作業をすることで、連帯感が生まれる



ここまで会報をまとめながら、1時間の学習会の内容とは思えない、中身の多さに気づきます。つまり、それだけ日常的に、あらゆる場面で関連づけるというのが「重枝流」なのだと実感します。だからこそ、「トピック的」な取り組みでは「風土づくり」はできないと言い切るのでしょうか。つまり、私たちがまず学ぶべきことは、とにかく「やってみよう」精神。あらゆる場面で。失敗も経験になるのですから。「やってみることで感じる」ということも、体験活動で実感しているのですから。

学活や道徳など設定された時間の中だけではなく、授業中に、集会の時に、部活動で、また朝の会、帰りの会で……。 「風土づくり」はまず、教師の「やってみよう精神」から培われるのかもしれない。

今回の学習会での「キーワード」

○自己有用感（自尊感情）

○トレーナー：ティーチャーであるよりファシリテーターとしての役割

○人は変えることはできない。人は皆、自らを変えることしかできない。

できることは、変わるための第一歩を促進することにすぎない。相手の知性と感情と身体
の周辺に風を送ることにすぎない。

○満足型・管理型・なれあい型

○シュロスバーグ表情相関図

○共感の顔

○ノンバーバルコミュニケーション（非言語的）

○後味の良さ＝「風土づくり」

（おまけ）

重枝流・教師としてのスタンス

①自分を上に見ない→生徒を尊敬すること

②人を見る目がない→誰に対しても公平・平等な態度

③自分らしくやる →自分のカラーでやる。自分らしくないことを無理してやらない。自分に
プレッシャーを与えない。発想を変えると楽→自由→ステキな世界

♪学習会に参加された先生方の感想♪ (参加人数 36名)

- ・体験活動があり、どのような実践を行ったのかを具体的に知ることができてよかったです。教師の声かけで、授業の盛り上がりが変わるので、意識していきたいと思います。
- ・たくさんのパワーをもらいました。次回からもなんとか都合をつけて参加します。やはり、体験してみて気づくこと、学ぶことは多かったです。自分のクラスをふり返ったときに、ああいうことをこういう手だてでやってみようとか、いろんなイメージがわきました。たくさんのヒントをありがとうございました。参加されている先生達とこの教室の雰囲気は気持ちよかったです。
- ・重枝先生が言われていることを、実際に1年生から取り組んでいけば、生徒指導が軽くなるというより、なくなっていくのではないかと思いました。取り組んでいきたいです。
- ・コミュニケーションの取り方の研修をもちたいと考えていたときに、この講座の情報を得ました。たいへん楽しく参加させていただきました。さっそく、自分のクラスで実践していきたいと思います。ありがとうございました。
- ・理論と実践が両方学べるので、実践を組み立てるための考え方で勉強できて、とてもありがたいです。また、重枝先生の「雰囲気」にも触れることができ、大変勉強になりました。
- ・今日も目からウロコ状態でした。重枝ワールドに気持ちよくひたれた1時間でした。エクササイズさっそくやってみます。(タイミングをみて)
- ・学級・学年のコミュニケーションに「新しい風」が吹いたような！このような学活などしたことがなく、自分が体験して次につながるような気がしました。
- ・対人関係に関するスキルはとても勉強になりました。学級の中でもコミュニケーション不足で、子ども同士のケンカがたえないので、今回学習したことを学級で取り組み、子どもたちに体と心で感じさせたいと思いました。
- ・頭では「なるほどなあ」と感心する理論です。これを軽いフットワークでやってみるしかないなあと思います。今の子どもたち、大人たちの現状から、つくづくそう思います。
- ・どんな内容の講義なのかわからず参加しましたが、とても新鮮で驚きました。私自身にもすぐに役に立ち、子どもたちとやってみたい、自分も高めていきたいと感じています。今日は本当にありがとうございました。
- ・正直、すぐに大きな「風土づくり」をしていく自信は全くありませんが、まず自分自身が感じたこと、できそうな活動をさっそくやってみて、生徒の様子を見ていきたいと思います。勉強会をうけて、本当に楽しい、ためになる、自分の力(技)のレパートリーに入れたいと思いました。先生が目指し、意図される「風土づくり」をそのまま真似できるとは思いませんが、自分の中のなにか「力」にしていきたいと思っています。授業中に先生からほめられるとうれしかったです。
- ・体の向きや視線、うなずきによる友好的なコミュニケーションの取り方を単なる説教ではなく、活動で実感させる方法を教えていただいて、楽しく授業を受けさせてもらいました。最後の方に板書された「後味の良さ＝風土」というものも心に残りました。雰囲気の良い学級や教科の授業を作っていけるようになりたいと思っています。今後よろしくお願いいたします。